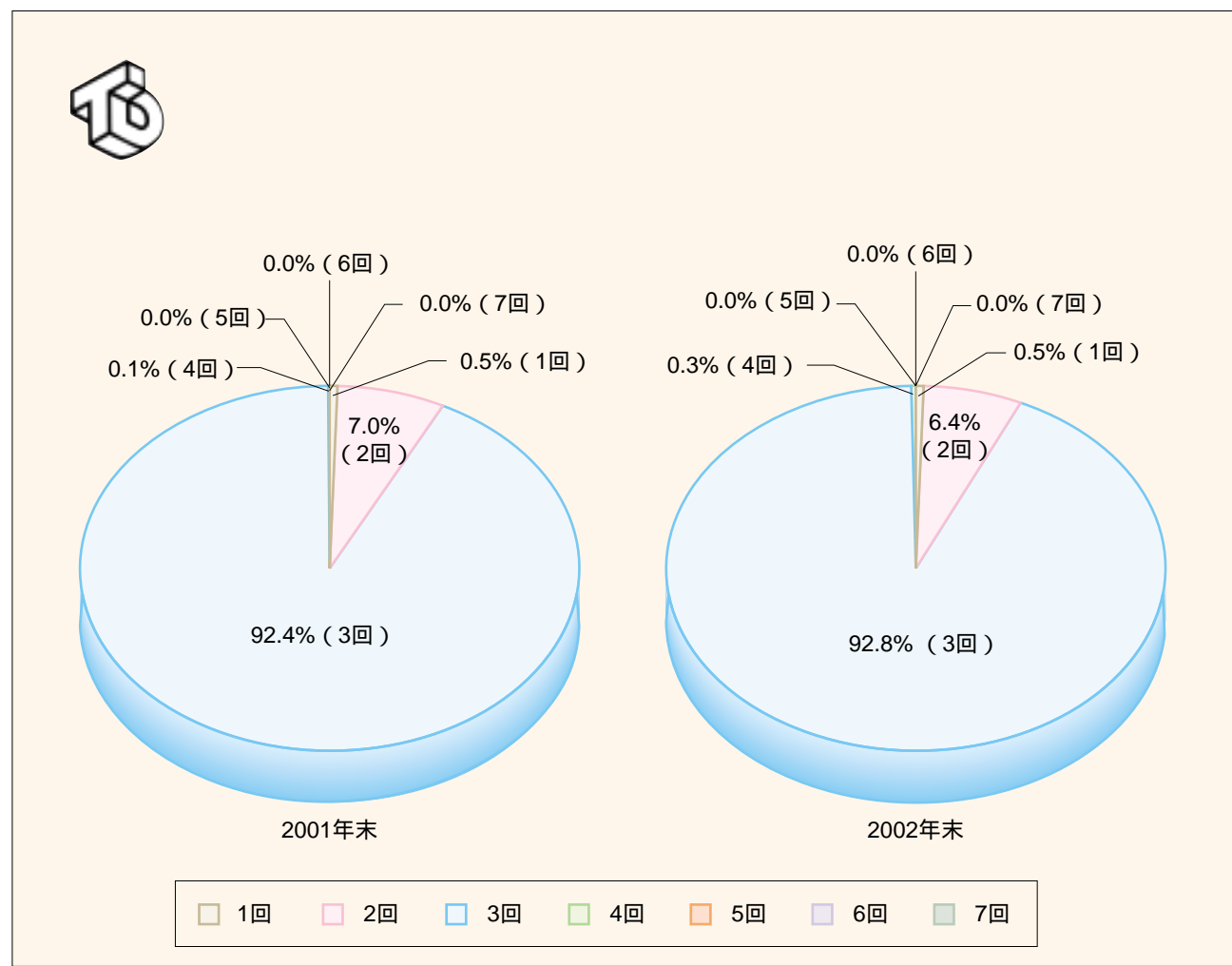


### 3) 透析パターン

(1) 年末患者における透析患者の1週間の透析回数 (図表27)



#### 解説

##### 週3回の透析パターン

今回の調査では個々の透析患者の1週間の透析実施パターンを明らかにすべく、曜日毎の透析実施状況、透析実施曜日の透析時間、そして血液検査値が測定された透析曜日が新規調査項目として調査されています。以下では、これらの調査項目それぞれの集計結果ではなく、これらの項目の集計結果を総合し、「週3回透析患者の透析パターン」と「透析クール」に関して集計した結果を示しました。

各曜日に実施された透析実施状況の調査にあたり、透析状況は以下のように定義しました。

- a. 昼透析 (透析開始時刻が、午前6時～午前11時)
- b. 中間透析 (透析開始時刻が、午前11時～午後5時)
- c. 夜透析 (透析開始時刻が午後5時以降で、透析終了時刻が午前2時以前)
- d. 深夜透析 (透析開始時刻が午後5時以降で透析終了時刻が午前2時以降)
- e. その他：透析を実施しているが、上記 a～d のいずれにも該当しない。
- x. (この曜日には) 透析を行っていない。

##### 透析実施状況が空欄であった場合の扱いについて

今回の調査では、週あたりの透析回数や後に述べる透析パターンや透析クールの判定は、全てこの「透析実施状況」の調査結果に基づいています。このため、7曜のうちの一部の曜日のみに記載がない場合、その曜日に透析が実施されたかを「不明」として扱うか、「透析を行っていない」として扱うか、が集計過程で問題となりました。

仮に「記載なし」を「不明」とするならば、一部の曜日の実施状況に記載がない患者は週あたりの透析回数も透析パターンも透析クールも判定できないこととなります。しかし、このような基準を適応した場合、実施状況の記載のない曜日が1日でもあるがために「1週間の透析実施状況は判定不能」となってしまう患者が少なくありません。このため、今回の集計では、一部の透析曜日の透析実施状況に空欄があった場合、それを「x. (この曜日には) 透析を行っていない」と同等に扱って集計しました。

前頁に、「年末患者における施設血液透析患者の1週間の透析回数」についての集計結果を、前回の2001年末と今回の2002年末について対比させた表を示します。ここに示しましたように、「記載なし」を「透析を行っていない」としてカウントしても、1週間の透析回数を直接調査していた昨年の調査結果と大きな差はほとんど認められませんでした。敢えて言うならば、2002年末では2001年末よりも週2回透析の患者がやや少なく、週4回透析の患者がやや多くなっています。前々回の2000年末の集計では、週2回透析患者は施設血液透析患者の7.5%と2001年末よりもさらに多く認められており、週2回透析に認められた変化に関しては、経年変化と解釈可能かもしれません。一方、週4回透析は、前々回の2000年末でも0.1%を占めるに過ぎず、今回調査での0.3%への増加が、経年変化によるのか、前記の集計上の操作に起因するのかわかりません。しかしながら、集計上の偏りが特定の透析回数にのみ集中することは、今回の調査方法に鑑みて考えにくいように思われます。従って、総合すると今回行った集計上の操作(一部の曜日に記載のない患者を「透析実施せず」として扱う)に起因する患者集計の偏りはほとんど無視しうるのではないかと考えられます。

##### 週3回透析患者の透析パターン

今回調査された「曜日毎の透析実施状況」に関する集計結果をもとに、1週間の透析回数が3回であった患者のみを対象として、1週間の透析パターンについて再集計を行いました。以下の集計結果を表とグラフで示します。ただし、グラフについては「昼3回」「中間3回」「夜3回」以外の透析パターンをとる患者がこれら3種のパターンに比べて少数であったため、これら3種のパターンについてのみグラフ化し、他のパターンをとる患者は「その他」として一括しました。